



2007年2月、『第58回さっぽろ雪まつり』の国際雪像コンクールに参加した各国からのゲストを、藻岩山に設けられた“Bar The Ice”へ、ガイドとして案内。“観光文化都市”札幌の魅力の世界へPR

有限
会社
インターリンクジャパン
阿部さおりさん

起業のパターン

- 独立
- 定年後
- 早期
- 主婦
- その他

起業のベース

- 専門
- 身近な
- 新分野

おもな事業内容

食、観光、旅、音楽、ライフスタイルに関わるイベントなどの企画や、

情報誌の発行

会社設立／2006年

東京、札幌で11年あまり放送の仕事に携わり、多忙な日々を過ごしてきた阿部さおりさん。自分らしい仕事のスタイルを求めて独立・起業し、イベントの企画、出版など多彩な仕事をこなしている。

憧れた放送の世界に入って

常に時代の先を行くマスコミの世界でも際だった華やかさをもつのが放送業界だ。《有限会社インターリンクジャパン》代表・阿部さおりさんの社会人としてのキャリアはこの、放送の世界から始まった。

室蘭市出身の阿部さんは、北海道内の短大を卒業後、東京の國學院大学に編入する。四年制大学を目指す気持ち、それに東京への憧れもあった。

大学では教職課程を修め、卒業後は学校の先生への道を歩むはずだった。その歩みを変えたのが、テレビ局でのアルバイトだった。華やかな放送界を目の当たりにして、この世界に強く引き込まれてしまう。

卒業を前にした就職活動では、主要テレビ局の採用試験を片っ端から受けるが、結果は全敗。受験者の多くがマスコミやアナウンサーの専門学校に通って準備するなかで、憧れだけの受験で太刀打ちできるはずもなかった。

それでもマスコミへの思いは断ちがたい。

結局、卒業の間際になって大学OBのつてを頼り、社員10人ほどの小さな音楽プロダクションに入社した。

入社2年目が過ぎたころ、阿部さんに転機が訪れる。札幌に新たにできるFM局で働かないかと、誘いがかったのだ。これを受け、北海道へ戻ることを決めたのは1994年のことだ。

スタートしたばかりのFM局の仕事は忙しい。番組の企画、構成、選曲と、一人で何役もこなした。東京の放送業界にいたというだけでハクが付いて見られ、周囲の期待も高い。それに応えるべくがんばって、泊まり込みのハードワークもしばしばだった。東京へトンボ帰りの出張、札幌を訪れたミュージシャンの深夜までの接待などもあり、まさに休む暇のない日々が続く。

放送局を退社、独立へ

そんな日々を送る阿部さんにとって次の転機となるのは、入社6年あまりが経ったころ、母親が大病を患ったことだった。体や健康の大切さを痛感するとともに、がむ

阿部さおりさんの これまでの歩み



- 1969年室蘭市生まれ ●國學院大学卒業後、東京の音楽プロダクションに就職 ●1994年、新たに開局するFMステーションで働くため札幌に戻る ●2003年、FM局を退社し独立。個人事業者としてスタート ●2006年《有限会社インターリンクジャパン》として設立登記

阿部さおりさんへの Q&A

Q. インターリンクジャパンという社名の意味は？

A. “ものごとを繋ぐ”といった意味です。人と人、人と地域など、いろいろな繋がりから新しいものが生まれることを意識しました。“ジャパン”を付けたのは将来、世界を視野に事業を拡大したいとの思いから。志は大きく！（笑）

Q. 今後の目標は？

A. まずはきちんと収益を出し続けられるようにすること。10年後には、自社ビルを完成させ、15人くらいの社員がいる会社に成長したい。

Q. これから起業する人にアドバイスを……

A. 何をしたいのかをはっきりすること。あきらめなければ夢は必ずかきます。がんばるだけでなく楽しむことも大切です！

有限会社
インターリンクジャパン

〒060-0005
札幌市中央区北5条西16丁目
tel 011-218-7575
fax 011-218-5566
http://www.interlinkjapan.net



（左）と飼育員
インターリンクジャパンが企画運営した《円山ZOOLO HASNAIT》の席上、動物園の取り組みや、飼育現場での裏話を語る金澤信治園長



阿部さんが編集を手掛けるフリーペーパー《HOSHII HITO》は、これまでに2号を発行。今後、季刊で発行していく予定



2006年5月、大通公園で行なわれた、第2回《ライラックワインガーデン》。インターリンクジャパンが企画・プロデュースを担当した

しやらに走って来た自分の仕事や生き方を、見直すことにもなった。

健康でいてこそ好きな仕事が続けられる。自分らしいスタイルで仕事をするにはできないか……。そんな思いが高じた末に下した決断は、退職し、独立することだった。

「みんながみんな反対しましたね」と阿部さんは振り返る。企画プランナーとして独立し、北海道の食、観光、音楽をテーマにしたイベントなどをプロデュースする。独立の構想を知人に話したところ、誰もが反対したという。そんな仕事で食っていけるわけではない。両親も猛反対した。

それでも決断は曲げなかった。「経済状況が最低ラインといわれる今、これより下はない。ゼロからのスタートにかけたい」と……。

退社後2ヶ月ほど充電期間をおいたのち、個人事業者《インターリンクジャパン》としての届けを出したのは2003年5月のことだ。

まずは名刺を作り、それまでに縁のあった人々への挨拶まわりを始めた。そこで痛感させられたのは『FM00局の阿部』と

いう会社の後ろ盾を失ったときの、立場の弱さ。まとまった仕事はなかなか入らず、焦りが募る。

初めての仕事はフォーラム関連のイベントだった。そこで、とある駆け出しの歌手に出会い、その後約1年間にわたって歌手の売り込みに奔走することになる。結果として、売れてきたころに歌手は阿部さんの元を離れ、採算は合わずに終わるのだが……。

「食」関連イベントで成果

本来やりたかった企画の仕事に向け、再スタートを切ったのは2005年4月。5月には、大通公園で毎年開かれる《さっぽろライラックまつり》における《ライラックワインガーデン》の企画を実現することができた。

これは、もともとワインを愛飲していた阿部さんが、ソムリエの資格をもつ友人とともに発案したものだ。道内各地にある優れたワインを紹介するとともに、北海道の食材をあわせて楽しんでもらおうとの考えがあった。

自分の好きな分野でひとつの成果を挙げ

たことが自信にもなり、このあとは「食」や「観光」に関するイベント企画で、徐々に実績ができていった。

2006年3月には《有限会社インターリンクジャパン》として設立登記をする。大手企業との取り引きでは、法人格があった方が都合が良かったためだ。最低資本金の特例制度を使い、何とか自力で調達した200万円を資本金とした。

「これからは食や旅、観光に加えてロハスな文化を広めていきたい」と、阿部さん。ロハス（Lifestyles of Health and Sustainability）とは健康と地球環境の持続可能性を意識したライフスタイルのこと。その一環として2006年8月、札幌市円山動物園で、動植物と地球の共存共栄を考える大人向けのイベント《円山ZOO LOHASNAIT》を企画・開催。そして9月にはフリーペーパーを創刊した。《HOSHII HITO（地球人）》と名付けられたその雑誌は、北海道の自然や環境を意識した、「北海道型ロハス」のライフスタイルを提案することがテーマだ。今後は季刊誌として発行していく予定だという。